

全教第 28 回定期大会中央執行委員長あいさつ

全日本教職員組合中央執行委員長 山口 隆

大会代議員のみなさん、傍聴者のみなさん。全教第 28 回定期大会にご参集いただき、ありがとうございます。また、大変お忙しい中、激励に駆けつけてくださったご来賓のみなさま、ありがとうございます。心から感謝申し上げます。

本大会は、全教結成 20 周年に開催する節目の大会です。私はまず、大会参加者のみなさんをはじめ、すべての組合員のみなさんとともに、全教運動の前進のなかで今日を迎えることができたことをともに喜び合いたいと思います。そのことをふまえ、3 つのことを呼びかけてごあいさついたします。

第 1 は、全教結成 20 周年を大きな節目として、運動と組織の飛躍を勝ちとろうということです。

この 20 年間の全教運動は、全教抜きに日本の教育は語れないという位置と役割を築いてきました。とりわけ特筆すべきは教育基本法闘争であると思います。いま振り返ってみても、このたたかいでは、2005 年の 3 月 26 日に開催した 1 万人集会をはじめ、全国の教職員の子どもを守ろうという意味が総結集されるとともに、各地で草の根から父母・住民との共同のたたかいが繰り広げられました。そうしたたたかいの到達点として、教育基本法改悪は強行されたが、教育においては子どもが一番大事、教育をどうするかを決めるのは父母・国民、という 2 つの重要なことが国民的に確認されてきました。それゆえ、憲法と教育の条理に立脚して父母・国民とともに教育をつくるという確信が全国にみなぎり、これがそれ以後のたたかいのエネルギーとなって生きて働いています。

昨年 4 月からの公立高校授業料無償化、来年度からの 30 年ぶりの学級編成の標準の見直しによる小学校 1 年生の 35 人学級実施が政府予算原案に盛り込まれたことなどに、そのことははっきりとあらわれています。あらゆる分野で国民の期待を裏切ってきた民主党政権のもとであっても、教育の面でのこれらの前進は、全教が中心となってとりくみ、この 22 年間で今年度集約分をふくめて、4 億筆という日本最大の署名として積み上げてきた教育全国署名の力をはじめ、子どもたちにゆきとどいた教育をという父母・国民、教職員の願いが政治を動かしてきていることを鮮やかに示しているのではないのでしょうか。

また、組織の面でもこの 20 年間で、山形、静岡、香川高、山梨高、愛教労、宮城高があらたに全教に加盟してきたことも重要な到達点です。この 20 年間の運動と組織の到達点に大いに確信を持つとともに、この到達点をふまえ、結成 20 周年の年に迎える本大会を結節点に、さらに未来に向かって全教運動を前進させようではありませんか。

私たちの運動は必ず前進させることができます。なぜならば、そこには強固な国民的基盤があるからです。私は、今年の 1 月 1 日付朝日新聞の教育にかかわる世論調査を非常に興味深く読みました。そこでは、たとえば「これからの学校教育を考えると、どちらにより力を入れるべきだと思いますか」という質問に対して、「できる子を伸ばすこと」という回答は、わずか 11%。圧倒的多数の 86%が、「すべての子どもに基礎的な学力をつけさせること」と回答しています。また、「競争に勝てば豊かになれるが格差が大きい社会と、豊かになれる機会は少ないが格差の小さい社会とでは、どちらのほうがよいと思いますか」という質問には、「格差が大きい社会」は、22%。「格差の小さい社会」は 67%となっており、格差拡大ノーの声が明確に示されています。さらに、「国や自治体が支出している教育の予算はどうすべきだと思いますか」については、「増やす必要はない」はわずか 9%に対して「増やすべき」という回答は 87%となっています。

すべての子どもの成長・発達の保障、すべての子どもたちにゆきとどいた教育条件をという願いは、圧倒的多数の国民の願いであることは、明らかではないでしょうか。この世論と固く結んで、全教運動を前進させようではありませんか。参加と共同の学校づくりをさらに多様に多彩の一つひとつの学校からすすみましょう。父母・地域住民との対話と共同をすすめ、教育についての国民的合意をつくりあげましょう。子どもたちの成長・発達のために、父母・国民と教職員がしっかりと結びつき、全教を運動と組織の両面で前進、飛躍させ、本大会を結節点とした、新たな 10 年、20 年をきりひらこうではありませんか。

第 2 は、教育をよくするとりくみの前進のためにも政治を変えたりくみが重要であり、目前に迫った統一地方選挙で教職員の要求を高く掲げたかおう、と呼びかけたいと思います。

統一地方選挙が目前に迫っています。統一地方選挙は、地方自治体の本来の役割をとりもどし、住民の暮らし、福祉、教育を充実させるために重要な選挙であることはいうまでもありません。同時に、この統一地方選挙は、

国政にも重大な影響を与える選挙だということもみなさん強く感じておられると思います。

いま、民主党政権は、消費税増税と法人税減税、TPPの推進、沖縄県民の願いをふみにじる普天間基地の辺野古への移設、「日米同盟」の深化、など国民の願いとは正反対の施策をすすめようとしています。このもとで多くの国民が民主党政権に失望し、怨嗟の声をあげています。しかし、国民は、自民党政治に戻ろうとは決して考えていません。国民の要求実現の前にも、教育要求の実現の前にも、財界大企業中心、アメリカいいなりという日本の2つの政治悪がそれを阻む元凶として横たわっています。古い「自民党型」政治にかわる新しい政治を求めて模索する国民とともに、子どもたちの幸せのために、どのような政治が求められるのかについて、いっしょに探求しましょう。日々の教育活動と地方から政治を変えるとりくみを一体として、政党支持・政治活動の自由、参政権の積極的行使という立場で、大いに奮闘しようではありませんか。

第3は、青年とともに未来をつくろう、ということです。

青年教職員は、「いい教育をしたい」「子どもたちともっと心を通わせたい」「そのために、うんと学びたい」「教職員どうしのつながりをつくりたい」という願いをふくらませ、日々教育活動に全力でとりくんでいます。先週全国青年教職員学習交流集会 TANE が開催されましたが、私自身そこに参加して、このことをあらためて強く感じさせられました。いま全国各地で、こうした青年自身が自らの要求を自らの手で実現させようとするとりくみが多彩に展開されています。

「TANE」をはじめ、私自身がこの間接してきた青年をみても、青年はすばらしい力を持っていると実感しています。全教は、お手元にお配りしているように 20 周年記念パンフレットを作成しましたが、冒頭の座談会で青年の言葉はすべて輝きに満ちていると感じるのは、私一人ではないと思います。

青年は、「競争主義」と「自己責任」論の影響を強く受けているがゆえの深い悩みとともに、一たんそこから抜け出すことができれば、教育活動に、学校づくりに、職場活動に、組合運動に、はかりしれない力を発揮することができます。教育といういなみそのものが、まだ見ぬ未来にむけて自らをひらくといういなみであるがゆえに、未来に生きる存在であり、21 世紀の日本の教育の本格的な担い手である青年は、教育にとって不可欠の存在です。青年とともに日本の未来、日本の教育の未来をつくりあげようではありませんか。

以上申し上げ、本大会が結成 20 周年にふさわしい大会として大きく成功させることができますよう、代議員のみなさんの積極的な討論を心からお願いし、ごあいさついたします。どうぞよろしく願いいたします。